

「スマホではなく周りを見よう」

内町小学校 五年 吉本 雅美

高学年となり、習い事や友人との待ち合わせなどで、一人で外出することも増えてきた、そんな私に母が持たせてくれたのが、けい帯電話だ。けい帯電話はとても便利な反面、使い方をまちがえると大変なことになる道具なので、わが家では、いくつかの約束事がある。その中の一つが、「歩行中や自転車での走行時には、けい帯の画面を見たり、操作をしたりしない」ということだ。そして、夏休みに入ってまだ間もない頃、私は、このルールの大切さを痛感する出来事にそうぐうした。

それは、じゅくからの帰り道のことだった。私は、家のすぐ横にある踏切を歩いて横断している最中だった。前方から、大学生くらいのお兄さんが自転車に乗って、もうスピードで、こちらに向かって来るのが見えた。耳にはイヤホンをしていて、大声で何やらしゃべっているようだった。お兄さんは前も見ずに夢中でしゃべり続けているので、私がせまい歩道にいることに気付いてくれているのか、だんだん不安になってきた。そして、私とのきよりがどんどんちぢまってきているのに、相変わらずスピードを上げたまま近付いてくるので、私はおそろしくなって、急いで歩道から線路に降り、ぎりぎりのところでよけるしかなかった。むねがドキドキして、手がふるえた。そのお兄さんは、私とすれちがったことにさえも気付かなかった様子で、あつという間に走り去り、見えなくなってしまうた。

私は、帰宅後もしばらく、身体中のふるえが止まらなかった。あのお兄さんは今ごろ事故を起こしていないだろうか、だれかにけがをさせていないだろうか、そんなことばかり気になって仕方がなかった。それで私は自転車通学をしている高校生の兄に、先ほどの出来事を話した。すると、兄は、

「たしかに、イヤホンをしている人、多いよ。自転車だけじゃなくて、歩行者にも結構いるし。実際に、横を通っても気付いてもらえなくて、ヒヤッとしたことが何回もあったよ。」と、困ったように言った。となりで聞いていた母は、

「スマホに気を取られていて、電車にはねられたっていう事故もあったよね。やっぱり道路や公園などの公共空間では、一人一人が周囲に注意することが大切なんじゃないかな。」と考え深そうに言った。私は、「もしもあの時、汽車が来ていたら」と思うと、ぞつとした。お兄さんだけではなく、周りの人たちまでも危険にさらされることになっただろう。道路は、みんなが通行するところだ。たった一人の身勝手な行動が、その人だけではなく、周囲を巻き込み、周りの人たちの命までもうぼううことになるのだ。私は、自分のためにも、周りの人たちのためにも、交通ルールをきちんと守っていききたい。そして、みんなが安心して、気持ちよく歩いたり運転したりできる社会にしていきたいと、強く思った。